

福島県 中学校長会 広報

・会長挨拶「就任のあいさつ」.....	1
・第65回福島県中学校長会総会	2
・平成27年度 組織及び役員一覧	2
・学校教育の今日的課題 「教師に求められる資質・能力とは」	3
・平成27年度県中学校長会の活動と運営 ...	4~5
・第66回全日本中学校長会総会報告	6
・支会情報と特色ある経営 (伊達・郡山・東西しらかわ・北会津) ...	7~10
・新会員紹介	11
・随想「夢は力なり」	12



就任のあいさつ

福島県中学校長会長 菅野善昌
(福島市立福島第一中学校)

はじめに、本年3月末をもちましてご勇退されました校長先生方のご功績に改めまして敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして、心より感謝を申し上げます。さらに、大震災、原発事故後の教育の復旧・復興に向けて、様々な視点から示唆に富むご助言をいただきました本会役員の皆様方に対しまして、心より感謝と御礼を申し上げます。

東日本大震災、原発事故からまる4年が経過しました。しかし、未だ臨時休業中の学校や避難先の仮設校舎等での学校再開は合わせて13校にのぼるなど、復興に向けてまだまだ厳しい状況が続いています。県内の各学校では、放射線の問題や生徒・保護者の心のケアの問題などと向き合いながらも、学校経営・運営ビジョン等に基づき、全教職員の英知を結集しながら効果的な教育課程の実施に努めていただいておりますことを大変心強く感じております。

さて、私こと平成27年4月22日の第65回総会におきまして、今年度の会長を拝命いたしました。微力ではありますが、これまでの本会の歴史と伝統を踏まえ、本会役員、会員各位、事務局員の皆様のお力添えをいただきながら誠心誠意努めて参りますのでよろしくお願い致します。

現在、本県の中学校教育には、震災・原発災害への対応と同時に、教育委員会制度の改革、道徳や小学校英語の教科化、土曜授業など、国による教育改革の波が押し寄せています。私たち校長は、これら改革の本質を正しく理解して取り組むことは勿論ですが、各学校や地域の現状を的確に把握しながら、子どもたちや地域にとって今何が必要かを考えながら、ぶれることなく着実に実践していくことが最も大切であると考えています。課題は山積しておりますが、今年度の県中学校長会の運営に当たりまして、「ふくしまの復興は教育が

ら」を原点に据え、次の4つの観点を重視して取り組んで参ります。

1 校長会は、校長自らの見識・資質等を高める研修の場であることを踏まえ、その成果等の効果的な活用(教育行政への提言等)を推進します。

各専門部会、各支会の定例会等を通して、具体的な調査結果や行政資料等に基づき研修の充実を図り、学校経営の責任者としての見識・資質等を高めます。

震災・原発事故前後の本県独自の課題や今日的な課題を分析的に捉え、その解決に向けて、県教委、地教委等と連携しながら、会員の英知と創意を結集して、「福島ならではの教育」の実践・展開に努めます。

2 改定版「全日中教育ビジョン」を踏まえ、学校からの教育改革に努めます。

確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成に学校全体での組織的な取り組みを推進します。

学校の自主性・自律性の確立に努め、家庭や地域社会に信頼される学校づくりを進めます。

3 教職員としての誇りと使命感を持ち不祥事の絶無に努めます。

教職に対する使命感や専門性を持ち、熱心に教育活動に当たる魅力ある教職員の育成に努め県民の信託に応えます。

本会として不祥事に対する危機管理意識を醸成すると共に、ストレスを抱え込まない職場環境づくりを推進します。

4 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善に努めます。

諸調査を通して現状を把握し、課題の共有化とその改善に向けた取り組みを推進します。

以上の4点を柱に、各支会の活動と連携を図りながら各専門部会の積極的な取り組みを通して、諸課題の解決に向け邁進する覚悟です。会員の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成27年度 第65回福島県中学校長会総会

平成27年度第65回福島県中学校長会総会は、4月22日(水)福島県教育会館にて開催されました。

総会では、箭内清和会長代行のあいさつにおいて東北地区中学校長会研究協議会福島大会では「ふくしまからの報告」が参加する校長先生方に衝撃と感動を呼ぶものとなり、記憶に残る大会になったこと、校長会と県教委との関係においては大きな進展が見られると共に「行動する中学校長」としての在り方を検討する必要があること、震災・原発事故から「4年」が経過し、「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源であること」を再度肝に銘じ、県民の信託に応えるべきであることと述べられました。

議事に入り、平成26年度会務・事業の承認及び決算報告が上程どおり承認され、続く平成27年度の役員選出では、菅野善昌氏（福島市立福島第一中学校長）が満場一致で会長に選出されました。

その後、平成27年度事業計画及び予算案が今年度の重点事項を中心に審議され、原案どおり承認されました。



総会後に行われた小・中合同開会式では、小・中校長会を代表して、中学校長会長の菅野善昌氏があいさつし、続いて、来賓を代表して県教育委員会教育長杉昭重氏、市町村教育委員会連絡協議会会長芳賀裕氏、元県中学校長会長吾妻幹廣氏より祝辞をいただきました。最後に前県小学校長会長会田智康氏が退会役員を代表してあいさつをされ、式を閉じました。

平成27年度 組織及び役員一覧

※ 理事が2名いる支会（福島・郡山・いわき）の支会長：◎印
※ 常任理事：○印

役職名	氏名	勤務校	
会長	菅野善昌	福島一	
副会長	行財政	小山金也	福島三
	研究	深谷哲三	若松三
	進路指導	島義一	中村一
	生徒指導	岡崎強	郡山五
監事		齋藤義益	郡山二
		星裕次郎	田島
		星秀美	広野
理事	福島	◎小山金也	福島三
	福島	菅野善昌	福島一
	伊達	佐藤敏意	桃陵
	安達	○青田誠	本宮一
	郡山	◎岡崎強	郡山五
	郡山	吉井明生	安積
	岩瀬	森合義衛	須賀川一
	石川	三森朗	浅川
	田村	宗像静夫	船引
	東西しらかわ	○箭内清和	白河中央
	北会津	深谷哲三	若松三
	耶麻	○長谷川良三	喜多方一
	両沼	瓜生幸男	板下
	南会津	室井永治	下郷
	相馬	島義一	中村一
	双葉	○小野田敏之	大熊
いわき	◎石井潤	中央台北	
いわき	松本伸一	平三	

【事務局】

事務局	事務局 長	福地憲司	福島四
	行財政部 会長	茅原秀雄	清水
	研究部 会長	小針伸一	北信
	進路指導部 会長	大橋誠寿	蓬萊
	生徒指導部 会長	齋藤良一	野田
	広報部 会長	林尚	西信
	庶務	黒須智則	平野
	会計	西牧伸弘	渡利

学校教育の今日的課題



—教師に求められる 資質・能力とは—

福島県中学校長会副会長 深谷 哲三
(会津若松市立第三中学校)

5月に、国立オリンピック記念青少年センターで開催された第66回全日本中学校長会総会に参加させていただきました。その折に文部科学省初等中等教育局長をはじめ、各担当からの行政説明を聴く機会に恵まれました。その時に感じたことを含めて概要を述べたいと思います。

文部科学省の説明は、21日小松親次郎初等中等教育局長から「当面する初等中等教育上の諸課題」と題する講演と、各教育課担当者より今後の検討すべき課題の行政説明がありました。

生徒の育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程の構造化

アクティブ・ラーニング等の指導法

道徳に係る教育課程の改善

理数教育充実のための総合的な支援

学校における補助教材の適正な取扱い

児童生徒の「被害のおそれ」に対する学校の早期対応

いじめ対策、不登校児童生徒の支援施策

など、これまでTVや新聞などの報道で耳にしてきた内容でした。教育再生実行会議による今年3月の第六次提言と5月の第七次提言を踏まえたもので、これからの時代に求められる資質・能力とそれを培う教育・教師の在り方、「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方についての説明でした。

この背景には、少子高齢化の進む社会や高度な技術革新による社会の変化に対応できる人間の育成に備えたものと思われる。

その中でも、これまででもことあるごとに教育界で取り上げられてきた、新しい時代に必要とする資質・能力の育成とそのため学習指導要領の構造化、学習活動の在り方が問われているということです。これからの近い将来、日本人はさらに進むと思われる少子高齢化による生産年齢人口の減

少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新による激しい社会変化など、それらに対応できる資質と能力がこれまで以上に必要となります。そのためにも、

何ができるようになるか

- ・他者と協働しながら創造的に生きていく力
 - ・主体的に取り組む意欲、豊かな感性
 - ・コミュニケーション能力、思いやり
- 何を学ぶか

- ・グローバル社会における英語能力の強化

- ・伝統的な文化に関する教育の充実

- ・生きる力の育成に向けた高等学校教育改善
- どのように学ぶか

- ・課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び(アクティブ・ラーニング)

- ・探究・表現など学びの質や深まりの重視

などが重要であると説明がありました。

しかし、これらについても学習指導要領が改訂されるたびに言われ続けてきたことで、その解決のために、多くの学校現場で多くの教師が共同研究や研修を通して進めてきたものと大きな違いはないものと考えています。今後は社会がより大きな変化をしていく中で、さらに必要性が高まっていくだろうし、教育の重要性がより強調されるものと感じます。

その他にも、川崎市における事件の検証を踏まえた当面の対策としてあげられた不登校生徒への支援、学警連携協定などの関係機関との連携、SSW配置など教育と福祉の連携、いじめ対策など、今日の日本が抱える学校教育の問題を改めて思い知らされました。

校長としての指導力・リーダーシップはもちろんですが、先見性や企画力、決断力などに加え、生徒同様に前向きで、主体的に取り組む姿勢も重要であると感じます。

平成27年度 「県中学校長会の活動と運営」

事務局長 福地 憲司

「ふたば未来学園高校」の開校は、今後の本県教育の復興に向けた「発信」、さらに「人材育成」の期待を担った、大きな第一歩であります。

また、全県的に除染が進む中、除染廃棄物の中間貯蔵施設建設予定地内に一時保管場所の整備工事が開始されたことや、県内への人口の転入が転出を上回るようになったことは、これも本県の復興に向けた明るい材料でもあります。

とは言え、災害後4年となる現在でも、休校している中学校が2校、避難先の仮設校舎等で授業を行っている中学校が11校という状況は変わらず、教育の復興に向けた道のりはまだまだ遠く、依然厳しい環境のままであると言わざるを得ないところです。

さらに、確実に除染は進んではいるものの、地域によっては通学路等の除染やホットスポットの問題など、今後も長く放射線の問題と向き合って行かなければならない課題も多く、特に「安全・安心」を最優先にした関係各機関との密接な連携に努めていかなければなりません。

このことから、私たち校長は、「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」ことをさらに肝に銘じ、ふるさと福島の復興と進展に寄与すること、推進の担い手である生徒に対し、困難に直面してもたくましく臨機応変に行動できるいわゆる「生き抜く力」をさらに育成すること、これらに努めることが肝要であります。

これまで、平成24年3月には、「ふくしまを生きる～福島県中学校長会からの報告～」と題して、本県の早期復興を願った報告書、平成26年3月には、学校が向き合った課題とその取り組みを振り返るとともに、福島の未来を担う生徒の育成に向けた各学校の取り組みを共有し、今後の本県の中学校教育の復興の方向性を示すべく、「ふくしまを生き

る」第2集として『凜と生きる』を発刊しました。

そして、平成26年6月26日(木)・27日(金)の両日には、東北地区中学校長会研究協議会福島大会を福島市飯坂町を会場として開催し、研究協議、行政説明、講演等とともに、特別プログラム「ふくしまからの報告」の中でふくしまの現状と歩みを発信したところでもあります。今後も、子供たちのために災害に真正面から向き合い、継続的な対応は勿論のこと、学校経営の最高責任者としての使命感や確固たる教育理念とビジョンのもと、強いリーダーシップを発揮しながら、地域の特質を踏まえた活力に満ちた学校経営に努めていく必要があります。

さて、本年度も各種調査等を通して本県教育の充実・振興に向けた課題を明確にし、教育行政をはじめ各種団体、関係機関等への働きかけなどを通してより強固な連携を図っていきます。

さらに、全日本中学校長会の研究主題「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」(本主題による研究初年度)を受け、8つの小主題を各支会ごとに分担し、実践研究の成果を研究集録としてまとめ、校長としての資質の向上と学校経営の改善に生かしていきます。

なお、今年度は行財政部会と研究部会の協力を得ながら新たに「特別委員会」を設置し、「新しい人事考課制度の理解促進と評価能力の向上」を期するために、調査・研究を進める予定であります。

今後とも、各支会との連携の強化を図るとともに、県小学校長会や高等学校長協会、その他関係諸機関との連携に努めながら諸課題の解決を目指していきたくと考えております。

会員の皆様の深いご理解とご協力、そして積極的な取り組みをよろしくお願いいたします。

専門部会活動の概要

● 行財政部会 ●

県小中学校長会の活動方針を踏まえ、互いに連携を密にしながら、教育行財政上の課題解決のために、組織的・継続的な対策活動に取り組む。特別調査については、震災後4年を経過したものの、未だ復旧・復興に向けて多くの困難を抱えている。深刻な状況を的確に把握し対応するため、継続実施する。

1 活動の重点

多様な教育活動に対応するための教育諸条件の整備・充実

教職員の待遇改善と福利厚生の上向

当面する重要課題の調査研究と課題解決

2 調査研究活動

(1) 平成28年度「教職員人事の反省」

(2) 調査 : 教職員配置等に関する調査

(3) 調査 : 教育施策の実施状況調査

(4) 特別調査: 大震災・原発事故の影響に係る調査
以上の調査結果を分析し、課題を明確にして要望内容の資料とする。調査結果については、ホームページに掲載するので活用いただきたい。

3 要望活動

小中の佐久間会長、菅野会長を中心とする要望団を結成し、9月に要望活動を行う。要望先は、福島県人事委員会、県議会議員政党等を予定している。

要望活動を充実させるためにも、不祥事根絶をお願いしたい。

4 教育懇談等

福島県教育庁関係者との懇談(8月)等を行い、連携して行財政上の課題解決にあたる。

(行財政部会長 茅原 秀雄)

● 研究部会 ●

1 共通理解に基づく共同研究の推進

今年度は新小主題に基づく3年継続研究のスタートの年度に当たります。これまでの研究成果を踏まえつつ、昨年度末に刊行した「研究の手引き」に基づき、共通理解を図りながら8小主題による各支会毎の共同研究を推進します。

なお、次年度は県研究協議会が「浜ブロック」を会場担当として開催予定となっており、2年次の研究成果を各支会が持ち寄り、8分科会での発表・研究協議を予定しています。

2 研究推進資料の提供と研究集録の編集

前述のように、今年度は新主題に変わっての研究の初年度ではありますが、年度末には、8つの小主題における各担当支会の1年間の研究の取組を成果として研究集録にまとめ、2年次以降の研究推進につなげます。

3 全日中、東北地区中と連携した研究の深化

6月25日、26日に開催される東北地区中靑森大会(第1分科会)及び、10月29日、30日の全日中福岡大会(第4分科会)において、郡山支会が第4小主題「健康・安全教育」かかる研究成果を発表します。

また、東北地区中靑森大会、全日中福岡大会に参加し、他県の研究推進にかかわる情報等を収集し、各支会へ提供します。

4 原発事故に関わり、学校教育が向き合った課題、対応等の記録の累積と発信

(1) 研究集録の中に、「ふくしまの今」を編集し、特に“双葉支会”を中心にふくしまの現状について記録を累積することにより学校課題等を全会員で共有します。

(2) 全日中福岡大会において、「震災体験が切り開いていく教育」の一端として、飯舘村立飯舘中学校の実践例を紹介、全国に発信します。
(研究部会長 小針 伸一)

● 進路指導部会 ●

1 「生きる力」をはぐくむ進路指導の推進

(1) 進路指導体制の充実

- ・キャリア教育の充実をめざす進路指導
 - ・「学級活動の時間」における進路指導の充実
- (2) 適正な進路指導推進のための資料収集・整備、活用の工夫

- ・各支会の進路指導主事研修会の活動の充実

2 高等学校入学者選抜方法の改善に向けた高等学校や関係機関との連携活動

(1) 高等学校との連携強化

- ・高等学校長協会、私立高校協会との話し合い活動の推進(特に、調査書記載統一にかかる内容の加除修正)

(2) 高等学校入学者選抜方法の改善、提言活動の推進

- ・県立高校入学者選抜事務調整会議への意見等の資料作成
- ・入学者選抜方法、内容、震災後の状況を踏

まえた課題の把握と改善のための資料収集及び資料提供の推進

3 適正な進路指導充実のための諸調査の実施と資料提供

- (1) 進路指導に関する諸問題の把握と資料提供
- ・平成26年度末進路指導に関する調査の分析と連携のための資料提供
 - ・平成27年度末進路指導に関する調査
調査1「入学者選抜に関する調査」
調査2「進路指導の現状と課題」
調査3「卒業生の進路状況調査」
- (2) 学級活動の時間の充実のための副読本編集
- ・「中学生活と進路(県版)」の編集と活用
- (3) 適正な就職指導、専修学校・各種学校等の選択指導のための指導助言活動の推進
- ・情報の収集・提供と関係機関との連携強化(進路指導部会長 大橋 誠寿)

● 生徒指導部会 ●

東日本大震災及び原発事故にかかわる中・長期的な課題を把握し、的確な対応を行う。また、生徒の心の問題に配慮し、安全で安心した学校生活を送れる学校づくりに努める。

1 高い規範意識と望ましい人間関係を基盤とした学習集団づくりに努める。

毅然とした指導方針による規律維持、生徒指導の機能を生かした教育活動の充実

2 震災、原発事故等にかかわる課題、不登校やいじめ、反社会的問題行動等、当面する諸課題の把握、解決や未然防止に対応する。

不登校、反社会的問題行動やいじめ等の実態把握と適切な対応、情報モラル教育等の充実

3 小学校及び高等学校・家庭・地域・関係機関・団体との連携を強化する。

特に小学校と連携した調査、部会長会の企画

4 生徒手帳を編集、刊行する。

生徒手帳の編集、刊行

(生徒指導部会長 齋藤 良一)

● 広報部会 ●

広報部会は、広報誌「福島県中学校長会広報」を年2回発行し、平成24年度より開設したホームページの維持・管理を行い、本会及び関係団体等の活動状況や会員に役立つ新しい情報などを提供し、広報活動の充実に努めます。

1 本会及び関係団体等の活動や動向についての情報を提供し、広報活動の充実に努めます。

- (1) 本会の組織・運営、事業内容、活動状況の報告
- (2) 各支会の活動及び、本会活動への会員の意見や感想の紹介
- (3) 関係団体等の活動概要の報告
- (4) 広報紙の発行とホームページの運営、資料の整理

2 関係機関・団体等との連携を深め、情報を提供します。

- (1) 関係機関からの情報把握と会員への早期周知
- (2) 諸活動の報告など

(広報部会長 林 尚)

第66回 全日本中学校長会総会報告

5月20日・21日に、第66回全日本中学校長会総会が東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、総会と文部科学省行政説明、講演が行われました。本県校長会からは、菅野善昌会長以下13名で出席してきました。

第一日目の午前中に開催された総会では、はじめに松岡敬明会長の挨拶、退会役員への表彰楯贈呈、そして文部科学大臣等からの祝辞がありました。会長あいさつでは「国の動きに対する対応」「全日中教育ビジョンの推進」「東日本大震災被災地における正常化への支援」について話され、最後に本会が全国の公立中学校長を会員とすることの確認がなされました。表彰楯贈呈の本県対象者として、君島勇吉前会長と香内一宏前会計監査が表彰を受けました。

続いて議事に入り、平成26年度の会務報告・決算について承認され、今年度の役員についての審議では、会長として伊藤俊典氏（港区立白金の丘中学校）が承認されました。就任の挨拶では、第39代会長として未来ある中学生のために誠心誠意会長としての任務を果たし校長会の目的を達成すべく、次の4点について抱負を述べられました。

組織と機能を充実し活性化を図ることについて

「全日中教育ビジョン」の2回目の改訂とビジョンの推進について

教育諸条件の整備充実や職責に見合った待遇改善を目指す取り組みについて

国の教育改革の動向への対応について

その後、平成27年度活動方針・予算が承認され、平成28年度第67回全日中研究協議会宮城大会における研究協議会主題及び分科会研究題についての提案と、宣言と決議を採択して議事を終えました。

最後に、第66回全日中研究協議会福岡大会について、河野敏春氏（福岡市立千代中学校）より紹

介があり、総会を閉じました。

2日目には文部科学省行政説明と講演がありました。文部科学省行政説明では、全353頁の資料をもとに初等中等局財務課長、教育課程課長、児童生徒課長の3氏から、学習指導要領の次回改訂他の説明をいただきました。

引き続き、「当面する初等中等教育上の諸課題」の演題のもと、文部科学省初等中等教育局長小松親次郎氏による講演が行われました。

概要としては、国の方の動きは夏に集中する傾向があり、353頁の資料は熟読玩味ではなく辞書代わりに使っていただければ幸いと話され、その資料をもとに中央の現在の動きと今後についての講演を頂きました。以下の様な内容の他、多くのことに言及されていました。

教育再生実行会議について

政策的提言を踏まえて3分科会にて審議中小中一貫教育の制度化について

中小一貫教育を行う新たな学校種の制度化等教育課程の改善について

教育課程の基準等の在り方

学校外教育と義務教育について

不登校生徒数の増大への対応など

アクティブラーニングについて

核となる教員の研修について



支会情報と特色ある経営

伊達

伊達支会の活動



伊達支会長 佐藤 敏意
(伊達市立桃陵中学校)

伊達支会は、伊達市の6校と国見町・桑折町の各1校、計8校の会員で組織される「伊達地区中学校長会」として活動しています。

中学校長会としての独自の活動もありますが、普段は1市2町の26校の小学校長で組織される「伊達地区小学校長会」と連携し、「伊達地区小中学校長協議会」として一緒に活動しています。東日本大震災、原発事故からまる4年、困難な状況が続きましたが、「伊達は一つ」を合い言葉として、「元気な学校・信頼される学校」づくりに会員心の一つにして励んでいるところです。

1 「伊達地区小中学校長協議会」としての活動

基本テーマの「教育改革期における学校組織マネジメントの確立と推進」を受け、具現化の視点

ア 学習指導要領の趣旨と内容を踏まえた学校教育・経営の推進

イ 体育・健康指導(放射線関連指導も含む)の充実をめざした学校教育・経営の推進

ウ 危機管理意識の高揚と危機回避・処理能力の向上にかかる組織づくり

エ 情報の共有化と有効活用の推進などに視点を当てて取り組んでいます。

2 「中学校長会」としての活動

定例会を中心として、各種報告、案件や課題の協議、研修、中教研や中体連等の各種団体との情報交換を密に行い、学校経営や生徒指導について協力して取り組む態勢をとっています。

3 「教頭会」との連携

迫り来る管理職の大量退職に備え、管理職をめざしている教員を対象に「教職員研修講座」を開設し、地区の校長・教頭が講師となり進めています。また、時宜を得た教育課題にかかる研修として地区の全教員対象に「教育講演会」を開催しています。

《学校紹介》

表現活動を通して地域との交流を

伊達市立月館中学校

『切磋琢磨～競い合い、高め合い、信じ合い～』今年度の生徒会のスローガンとして採択され、現在、昇降口に大きく掲示されています。

本校に赴任し3年目を迎え、生徒の力強い変容を職員と共に感じる事が多くあります。その契機となったのが平成25年度の「夢の課外授業」EXILEとのダンス共演でした。素直で真面目な生徒ですが、自己表現力が弱く、何かきっかけを与えたいと思い始めていた時の頃でした。ダンス練習の最初の頃は、複雑なステップや速いターンについていくことができず、完成も難しいと思っていました。

しかし、職員が一致団結して指導や支援に当たり、授業や昼休みの練習、夏休みの練習を通して、形が身に付き、9月の発表会を迎えました。EXILEのUSAさんから「鳥肌が立つほど感動しました。」という言葉を受け、生徒は自信を持ち、10月のスポーツ祭東京2013年の閉会式では進化したダンスを披露することができました。さらに、この年から有志生徒が地域の方々に元気と勇気を与えたいと地域の文化祭にもダンスを発表し、今年度も生徒会が中心となって練習に取り組んでいます。

文化活動では、月館町主催の川柳の制作活動に意欲的に取り組んでいます。季節の題などを、国語の時間に全員が授業で学習した内容や辞書を使いながら17文字に込める表現に取り組んでいます。この川柳制作は地区の小学校も一緒に取り組んでおり、月館地区の伝統ともなっています。ダンス発表や川柳の制作、いずれも生徒の表現力を磨く活動として、今後も継続できればと考えています。



(校長 家久来三典)

郡山

郡山支会情報



郡山支会長 岡崎 強
(郡山市立郡山第五中学校)

郡山支会は、今春4名が退職、4名が他管内や行政に転出し、新たに昇任者1名を含め8名の校長先生方をお迎えし、年度当初の総

会で新役員、事業計画、予算案などが承認され、平成27年度がスタートしました。

本支会の今年度取り組んでいかなければならない主な課題は、まず、校長会の世代交代に伴う組織力の強化です。平成27年度が5名、28年度が8名、その後が2名、4名、そして31年度には10名を超える校長が本支会から定年退職を迎えることとなります。

次に、東北地区中学校長会研究協議会青森大会や全日中研究協議会福岡大会における「保健・安全」分科会の発表です。東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故後の生徒の健康安全を守るための取り組みや体力・運動能力の実態とその対応について研究部を中心に検証し、発表予定です。

また、今年度は、中教研においても県大会が県中県南大会で、本支会でも美術や道徳など6部会が授業提供や会場校になっています。中体連においても県大会や東北大会が本市で開催される競技があります。校長会として成功に向け全面的に支援してまいります。

進路指導や生徒指導部会では、中学校と高校の連携を図るために毎年2回開催の「中高特連絡協議会」において、高校入試や生徒指導上の諸問題について意見交換をしながら、今年度も課題解決に向け連携を図ってまいります。

学力向上については、本市教委からの指導を得ながら、「学びの型」と学習活動の基盤となる「学級力」の向上を図る取り組みを全校あげて取り組み、学力向上を図ってまいります。

以上の点を中心に、今年度も本支会の組織力を生かした取り組みを積極的に行ってまいります。

《学校紹介》

施設分離型の小中連携の在り方を探って

郡山市立高瀬中学校

今年度、本校の重点実践事項の一つは、小中連携の充実です。高瀬地区は高瀬小学校と高瀬中学校の一小一中で成り立っており、学校同士は近隣に位置する兄弟校のような関係にあります。

昨年度までの小中連携は、年2回の授業研究や英語のTT授業、情報交換などを主に行い、研究協議はするものの単発的な実践に留まりました。しかし、昨年度小中合同で実施した教育講演会や芸術鑑賞教室を契機に、これまでの実践を生かして継続的な取り組みができるのではないかという思いを強くしました。

高瀬地区の小中連携においては、第一に小中で学習指導法の連携を図ればさらなる学力向上が望めること、第二に低下している体力の向上を図るために継続した取り組みが必要なこと、第三に小中同じ人間関係であるための弊害や中1ギャップがあること、などの課題があげられます。

そこで今年度は、校長・教頭・教務主任・研修主任で構成する小中連携推進チームを中心として、小中の全教員を、学力向上チーム、体力向上チーム、健全育成チームの3つに分け、課題解決のために共同で取り組むことをそれぞれのチームで話し合い、実践にうつしていきます。

現時点では、郡山市で進めている「学びの『型』」の指導の共同実践や教員の専門性を生かして行う出前授業・合同授業、あるいは合同体育祭、ピア・サポートを活用した交流(部活動体験、コミュニケーションスキル等)などが課題解消に有効ではないかと考えています。

初年度ということもあり無理はできませんが、9年間で高瀬地区の児童生徒を育てる視点をもって小学校と力を合わせていきたいと思えます。



(校長 三輪 晶子)

東西 しらかわ

東西しらかわ支会の活動

東西しらかわ支会長 箭内 清和
(白河市立白河中央中学校)



東西しらかわ支会は今春、2名の新会員と3名の転入会員を迎え、今までの会員と心をつなげて、新たな組織でスタートを切りました。

本支会は、一昨年(2014年)の4月にそれまでの西白河支会(14校)と東白川支会(4校)が統合し、東西しらかわ支会(18校)として発足し、3年目を迎えました。

今年度4月、時間をかけて準備をしてきた「中教研」もようやく一つになりました。「中体連」「校長会」とあわせて、「東白川」と「西白河」が統合し、名実ともに新たな組織「東西しらかわ」がスタートしました。中教研総会時各部会を参観させていただきましたが、技能教科を含め、会員が増え「活気あふれる」様子に感慨深いものを感じました。これまで長い間尽力された関係者の皆様に感謝を申し上げる次第です。

年5回の研修会を中心にきめ細かな情報交換を行い、共通理解を図りながら、諸問題の解決に取り組んでいきたいと思っています。特に、今後以下の諸課題に向けた具体的な取り組みを充実させなければならないと考えています。

- (1) 管理職が大量に退職する時期を迎えるにあたって、教頭職・校長職を担う人材の育成が急務である。
- (2) 教職員の不祥事防止、特に校長の不祥事絶無に向けた取り組みを強化していかなければならない。
- (3) 新しい人事評価システムが導入されるにあたって、よりよい評価に向けて調査、研究をしていかなければならない。

など、小学校長会、中学校長会に共通する課題が増加する中であって、今後その解決に向けて積極的に協力・連携を図っていく必要があると思っています。

《学校紹介》

五気の心得を意識させて

矢祭町立矢祭中学校

今春に新任校長として着任した矢祭中学校は、矢祭町で唯一の中学校です。地域の学校として、保護者や地域との連携がとれる一方で、子育てや中学校教育への期待が大きい町でもあります。

前任校長との引き継ぎによる教育課題は次の5点でした。

- ・受け身的であること
- ・規範意識が低いこと
- ・学習習慣が定着していないこと
- ・生活習慣の乱れが見え始めていること
- ・体力が低下していることと肥満率が高いこと

これらを改善するために、「五気の心得」を教職員、生徒、保護者に説明し、理解と意識した生活を求めました。

元気

毎日を健康に過ごすために、安全への意識と危険回避の判断、食生活の安定

義気

正義を堂々と貫く態度、ダメなものはダメ、自分も他人も大切にすること

覇気

チャレンジ精神、興味を持ったときに絶好の機会、勉強も部活動も生徒会活動も趣味も

根気

一度始めたことは良くも悪くも結果が出るまでやり通す、継続は力なり

和気

学校は集団生活を行う場、明るい笑顔と元気なあいさつ、お互いを認め合い高め合う

さらに「当たり前を当たり前にする学校」、「チャレンジする学校」を生徒会と教職員との共通スローガンとして教育活動を行っております。



(校長 新井 達也)

北会津

北会津支会情報



北会津支会長 深谷 哲三
(会津若松市立第三中学校)

北会津支会は、会津若松市、磐梯町、猪苗代町の3市町15校で組織されています。北会津小学校長会や3市町教育委員会、諸関係団

体からご協力ご支援をいただきながら、平成26年度の教育活動を順調に進めることができました。

そして、研究部を中心に5年間「教職員研修」を進めてきた中で、会員の意見や疑問、情報をお互いに交換し、大切にしながら、校長としての資質・能力を高めてきたことが、各学校での経営や生徒指導面での対応に大きく役立っています。それが現在の本支会運営の基本となっていると思います。

今年度の主な活動としては、

北会津支会中学校部会の開催、年3回

全会津中高校長連絡協議会の開催

会津の4支会と高等学校長会との連携

夏の北会津支会研修会の開催

磐梯町にて、研究部を中心に開催予定

高等学校説明会の実施

北会津地区は10.21(火)に実施

現職・退職校長会研修会の開催

などの事業計画が予定されています。

現在、学力の向上、規範意識の育成、体力の向上、携帯電話・情報端末等の健全な活用指導、生徒数減少、教職員の不祥事絶無など、校長として解決すべき課題は多く、多岐にわたります。

これらの課題に対して、話し合いをもとにお互いの情報や意見を交換し、研修を積みながら、校長としての職責を果たしていきます。一人で悩まず、実践や情報を共有化して、学校経営に役立てていくことを柱にして、この校長会の存在する価値をより高めていきたいと考えています。

そして、支会15校が切磋琢磨しながら、教育力の更なる向上をめざして教育活動を展開してまいります。

《学校紹介》

Rising Sun Project
～夢の課外授業SPECIAL～

会津若松市立湊中学校

のどかな田園地帯が広がる本校に着任したのは今年の四月。生徒は素直で俗に言うよい子たちであるが、一步踏み出す勇気やチャレンジ精神、そして体力低下と肥満傾向出現率に課題があった。

昨年度取り組んだ標記事業は、被災地で生活する中学生のストレス解消を目的とした復興支援交流事業である。内容は、あの国民的な人気グループEXILEと「Rising Sun」という共同作品を創るという正に夢のお話。

9月に行われた1回目の練習会。EXILEメンバーのキレキレのダンスは想像をはるかに越え、憧れは「あんはふうに踊ってみたい」という願いへと変化した。それから猛練習が始まった。しかし、何度練習しても思うように踊ることができない。挫折し、あきらめかけるが後戻りは許されない。教師集団に情熱がわき起こる。47名の生徒と教職員が励まし合い一丸となった練習は2ヶ月半に及んだ。そして臨んだスパリゾートハワイアンズでの発表会終了後。生徒と教職員の笑顔が満ちあふれ、チーム湊の絆に感謝する瞬間であった。この経験は、生徒にあきらめず何事にも粘り強く取り組むことの大切さを強烈に教えてくれた。EXILEメンバーから湊ザイルと命名されたことも生徒の自信となった。



今年になってもRising Sun Projectの数々のエピソードを熱く語る教職員の姿は、やり遂げた自信に満ちあふれている。子どもの成長を肌で感じる事ができた経験は、教職員にも自信と誇りを改めて与えてくれた。執筆中も「Rising Sun」の曲が体育館から聞こえてくる。今もなおダンスに夢中な生徒たち。体力向上と肥満傾向出現率の改善に期待が高まる。(校長 原 孝行)

新会員紹介

支会	氏名	校名
伊達	芳賀俊幸	霊山
伊達	湯浅英生	県北
安達	仁平光俊	東和
安達	井関和明	本宮二
郡山	阿部孝寿	二瀬
岩瀬	高橋政広	岩瀬
田村	富岡信	都路
東西しらかわ	長嶺吉浩	五箇
東西しらかわ	新井達也	矢祭

支会	氏名	校名
北会津	原孝行	湊
両沼	我妻雄比古	金山
南会津	今井仁	只見
双葉	淀正明	浪江東
双葉	反畑増生	津島
双葉	武口隆行	葛尾
双葉	阿部洋己	富岡一
いわき	丹野英雄	久ノ浜

新会員の声

校長職としての船出

郡山市立二瀬中学校 阿部 孝寿

「新入生入場」の進行の合図とともに、真新しい制服に身を包んだ8名の新入生が、緊張した表情ながらも堂々とした態度で入場して来ました。いよいよ平成27年度入学式の開始です。新入生にとっての中学校生活一年目がスタートしました。同時に、入学式から自分自身にとっても本格的な校長職一年目の船出となり、新入生と同様に緊張して式に臨みました。「新入生呼名」では、どの新入生からもこれからの中学校生活への不安を払拭するような大きく力強い返事がなされ、大変頼もしく感じられました。また、「誓いのことば」でも、新入生代表が中学校生活への期待等についてしっかりと述べ、輝く真剣な眼差しが対面する私に向けられました。その眼差しからは、よろしく願いますという気持ちが確実に伝わり、校長として生徒たちのために頑張らなければという気概をもつとともに、学校経営に携わる責任の重さを痛感しました。

本校では、「あいさつ・清掃・時間厳守」を生徒信条に掲げ、その実践を通して「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の校風を構築しています。そして、人を大切にする教育を基盤に、小規模校、少人数教育のよさを生かし、互いの魂と魂がぶつかり合い、心揺さぶられる感動に満ちあふれ、人とのつながりやかかわりに素晴らしさと魅力を感じられる教育活動を推進していきたいと考えています。

校長先生の椅子

只見町立只見中学校 今井 仁

着任して早々には椅子に座れませんでした。今までの幾人かの校長先生の姿を思い起こすと、ドカッとは行かず、暫くして恐る恐る腰をおろした次第です。

機長の700万マイル（田口美貴夫。講談社1999年）を再読しました。体調を崩さない健康管理や乗客への配慮等、なるほどと思うことがあります。特にプロペラ機からジェット機への移行期の話が印象に残ります。高速度・高高度になったために、素早くかつ的確な判断が必要というのです。100kmでも6分ほどの飛行です。前方に異状があれば回避です。安全性や快適性、方向や高度、他機的位置、管制との交信、乗務員への指示、燃料（経済性）等をもとに判断するというのです。その場に来てからでは間に合わない。乗務前から状況を予想し、別の飛行プランも用意しておく。往年の名パイロットもこのスピードに対応できず、引退したことが多々あったそうです。

校長室の椅子に座って、このことを強く感じます。自分が「長」として足りるのか？と振り返り、時代・社会情勢の変化や課題への対応等、安全に目的地に到着できるよう、日々研鑽を積んで行こうと思っています。

現任校に着任以来、事あるごとに生徒に「夢は力なり」ということを話しています。以前に勤めた学校で縁があり、プロ野球選手やオリンピックのメダリスト、監督やコーチなどの日本国内だけでなく世界で活躍するたくさんの方とトップアスリートや指揮官の人と話をする機会がありました。そんな人たちに接する中で、私が感じたことが三つあります。

一つ目は、自分を向上させることに対してチャレンジ精神が貪欲なまでに旺盛であることです。アスリートや指揮官も非常に強いプレッシャーの中で試合に臨んでいることは誰にも容易に想像できることですが、オフシーズンの方がより強いプレッシャーを受けていて、どうしたらプレッシャーを克服できるかを常に考えていることです。このことは、トップアスリートや一流の指揮官と呼ばれる人ほどより強いプレッシャーを受けていると感じました。その解決として、私たちは練習に没頭しています。ただトップアスリートや指揮官は、一見練習に関係のないようなことであってもチャレンジングしていることです。たとえば、ヨガ、座禅、内観、酵素風呂、食べ物等です。また、自分にプラスになると思う人に教えを請うなど貪欲と思えるほどにチャレンジしています。その中で、これは自分に合う、合わないを判断して、技術面や精神面に生かしているのです。その陰の努力は半端なものではないことに気づかされました。私たちは、外見の華やかさや結果についての批評に目がいきがちですが、陰の努力に着目してみると、競技が尚一層興味深くなります。

二つ目は、失敗したときの反応がポジティブであることです。私たちは、失敗すると落ち込み自信喪失になります。中体連での生徒も同じで、

随想



福島県中学校長会副会長
島 義一
(相馬市立中村第一中学校)

夢は力なり

顔面蒼白になり、唇、のどがカラからになってコートに立っています。それに輪をかけて、顧問からの叱咤激励。その言葉は、生徒にとってはどれだけ体も心も凍てつかせていたかを考えないで指導していた若い頃の自分の部活動の指導を振り返ると本当に恥ずかしく思います。外国の選手は、ポジティブ思考を容易にできる民族が多いのかもしれませんが、私たちはどうしてもミスをする自分のせいで負ける、自分が力がないからと自分を責めてしまう傾向が強くなると思います。それに対し外国人は、新しい課題が見つかった、今日の試合は自分の持てる力を思い切り発揮しよう、結果は後からついてくるものなどと思う人が多いのかもしれませんが、逆にそのような外国人選手を見ても、それが国際大会に弱い日本人を作っているのかもしれない。

三つ目は、験担ぎに強くこだわっていることです。たとえば、バッターボックスに入ったときの仕草、精神統一の仕方、勝ったときのガッツポーズなど人によって様々です。しかし、その験担ぎは、今までの練習や経験の中で作り上げられたものです。そしてそれは絶えず進化しています。「努力は裏切らない」という信念のもと自分なりのスタイルを見出していると感じました。

トップアスリートや指揮官の旺盛なチャレンジ精神やポジティブ思考、験担ぎへの強いこだわりの源は、やはり競技が好きだ、勝ちたい、世界のトップになりたいという強い思いがあるからだと思います。このことは、一流のごく一部の人のことではなく、私たちや私たちが育てている子どもたちにも当てはまることだと思います。大きな夢でなくても小さなごくありふれた夢であっても「夢は力なり」を信じて、一つ一つの夢を実現していきたいと思えます。